2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年９月２８日
● 事　業　名　：　北海道食ネットワーク事業
● 資金分配団体　：　一般社団法人全国食支援活動協力会
● 実 行 団 体　：　一般財団法人北海道国際交流センター

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
0101.北海道ロジネットワークがロジ拠点とＰＤＣＡ（課題把握・事業振返り・改善）ができている	会議体の参加メンバー／会議開催議事録	７地域（函館、札幌、胆振、苫小牧、帯広、釧路、旭川）の担当者が参加している。定期的にコミュニケーションを取っている。	2024 年 3 月	① 食フェスタの実行委員会開催回数、参加した機関・団体についてお書きください 食フェスタについては、11 月２７、２８日の予定で実施。函館で実施するように準備中。実行委員会の打ち合わせはこれからで、１０月１日の北海道こども食堂ネットワークミーティング、１１月１８日のフードバンク会議と連動して、計画を推進する。 ② ②上記委員会での課題の検討状況、協議内容をお書きください。コミュニケーションを取る上での工夫（現状と課題）をお書きください。 具体的な物流・倉庫の状況を取りまとめて、食フェスタでより強固なものにできるように進めたい。具体的には、幸楽輸送との事業展開を推進し、物流新聞からの情報も得ながら、複数の物流会社との事業展開を行ってゆく。	2

0102.ＨＩＦが道全体としての課題を協議できるネットワークを形成している	参加機関（社協、企業）の広がり	50 機関	2024 年 3 月	本事業推進にあたって課題を協議するために新しく参画された、呼びかけている社協・企業の数と支援内容をお書きください。 　道社協とは他の生活困窮事業でコンソーシアムを組んでいるので、そのつながりを活かして更に協力関係を構築する。企業については、すでに３０社程度のつながりがあるが、経済５団体を訪問したことを活かし、更に企業連携を強めてゆきたい。また、地元でもニチレイフーズの冷凍食品や、ミスタードーナツなどからの食の提供の話もあり、更なる企業連携を推進したい。 ４、7 月と事業説明・協力の呼びかけのため関係団体・機関を訪問： 北海道社会福祉協議会 公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター 北海道庁（子ども未来推進局子ども子育て支援課、環境生活部環境保全局環境政策課、農政部食品政策課、経済部産業振興課 RCE 北海道道央協議会 公益財団法人北海道女性協会 北海道国際交流･協力総合センター 一般社団法人北海道養豚生産者協会 公益財団法人北海道科学技術総合振興センター NPO 法人フードバンクイコロさっぽろ 特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター 北海道中小企業団体中央会 北海道経済同友会 一般社団法人北海道商工会議所連合会 北海道商工会連合会 北海道経済連合会	2

0201.各ロジ拠点が地域に必要な情報が発信できる	①発信媒体（フリーペーパー、ちらし、ホームページ）が作られる。 ②問い合わせ件数	①発信媒体を通じて定期的に情報発信している。 ②発信媒体を通じて支援の問い合わせに繋がっている。	2024 年 3 月	① 本事業に関する広報発信実績をお書きください。（ホームページ作榮の進捗含む） ・ホームページの製作が遅れているが、１２月までに北海道食支援ネットワークの仕組みをわかりやすいデザインにまとめ、それをホームページに挙げるようにすすめる。 ・HIF の情報誌をリニュアルして、年 6 回の「HIF　PRESS」の中でも広く、活動を紹介してゆく ②問い合わせ件数と問い合わせ内容をお書きください。 ・こども食堂、フードバンクから 30 か所の問い合わせを受けている。食材が最近は手に入らないということで、困っている団体もあり、うまく食が回るような対策が必要になっている。	3
0202.ネットワーク全体に協力してくれる企業が増える	協力企業数	20 社	2024 年 月	支援に関心を示す協力見込み企業数をお書きください ・当団体でアフガニスタンの家族受入をしていることから、すでに持っている協力企業は 20 社を超えていて、そのつながりを本事業にも応用させていただいて協力関係を結んでいる。また別事業で合同企業説明会を開催し、函館近郊の 30 社くらいの企業との関係を新たに構築していて、それらの企業の巻き込みも行ってゆきたい。	2
0203.セントラルロジが全国や道外のロジ拠点と連携することにより情報が集まる	全国や道外のロジ拠点と連携した実績	連携した実績が生まれている	2024 年 3 月	当会が実施している会合含め他地域での会合への参加による情報収集などの活動実績をお書きください ・オンラインミーティングについては、食支援さん主催のものに参加している。また、今年度行われた対面の全国の関係者が集まる会議（7 月東京、9 月長野）では多くの連携を作ることができた。	2
0204.セントラルロジが道全体の支援ニー	他機関が主催する連絡会議	年 3 回以上	2024 年 3 月	食フェスタ開催実績をお書きください。参加企業・団体数内容含む。 2022 年 11 月に食フェスタ実施（11 月２７，２８日：函館）	2

ズ（ロジ拠点の活動好事例や課題）を発信する（アドボカシー）	等の参加数・発信内容			それぞれの地域で情報発信を行い、地域との関係性を強める。また、６月、７月にロジハブシステムを構築するための会議を行った。 6 月参加者（2 日間）45、32 名、7 月参加者 28 名	
0301.セントラルロジ拠点→７ロジへの物流体制が整う	①協力運送会社の数 ②支援エリア	①３社 ②７エリア	2024 年 3 月	① ②協力運送会社への呼びかけ（支援地域含む）、対話の状況をお書きください ・ニッコー運輸、幸楽輸送が関心を持ってくれている。他の物流事業者へのアプローチも行ってゆきたい。	3
0302.倉庫機能が充足し、ロジ拠点が安全に管理している	①倉庫機能があるロジの数 ②衛生研修会の参加者数	①事前評価をしてから設定 ②北海道ロジネットワークを利用する団体が研修会に参加している	2024 年 3 月	① 事前評価を踏まえた倉庫機能の目標状態、ロジ数をお書きください。 ・倉庫を苫小牧と函館に構えて、そこからの流通を計画。セントラルロジを函館、苫小牧をロジとして、ハブ拠点 7 赤所との連携を行う。 ② 衛生研修会の開催実績、参加団体をお書きください。 ・保健所の衛生研修に参加したが、事業として行っていないおので、１１月の食フェスタで衛生講習を実施したい。。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし　☐ 短期アウトカムの内容　☐ 短期アウトカムの表現　☐ 短期アウトカムの指標　☐ 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
オンラインも含めた活動を常に並行して考慮している。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

2.広報制作物等

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全体総括	池田誠	事務局長
内部	事務作業	近藤愛子	プログラムコーディネーター
内部	コンサルタント	榎木とも子、中村秀規	元 JICA スタッフ、編集者デザイナー
外部	アドバイザー	山川知恵、松崎愛、和田順子、菅原亜都子	

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
関係者・連携団体	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	北海道ロジネットワーク内の物流体制図が整い、事業終了後も活用することができる状態	2024 年 3 月	いくつかのレイヤーで食を提供することができている。こども食堂ネットワーク、フードバンクネットワーク、社会福祉協議会ネットワークなどのネットワークが重なり合うことで、連携に厚みを持たせることができている。
関係者・連携団体	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	域外からの食品提供量１００トン	2024 年 3 月	全国食支援活動協力会、北海道庁経由の食料がすでにあり、今後は北海道内の企業開拓を進めてゆきたい。また全国の国際協力団体や、中間支援の JANIC なども食料の分配を行っていることから連携を高めて、食料の確保を行ってゆきたい。

① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
セントラルロジに集まった物資をロジ拠点とシェアできている。	21 年度は資金分配団体との連携により 25 トンの食品をこども食堂等居場所へ分配することができた。	域外からの寄贈を受け入れてはいるが、物流体制が整っていないため、函館等から実行団体所有の車両で可能な範囲を運搬しているのが現状である。物流の体制を組めていないが、幸楽輸送との北海道物流ネットワークについて、協議を行っている。 今後北海道物流のモデルを作ることができれば、域外からの物資も受けられるようになると考える。

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	受け入れの団体については、イベントなどを通じて、増やすことができている。また、ハブ拠点の倉庫も徐々に充実してきており、ハブ拠点を結ぶ物流のネットワークをつくることで、北海道物流ネットワークのモデルを構築することができる。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	①事業開始時から実施してきたフェスタや学習会が新しい事業連携や体制強化につながる有効なプログラムになっているか。呼びかける対象者･広報ルートが目的と合致していたか。 ②北海道における食支援活動団体への寄贈品の流通状況の現状と課題を十分把握しているか	① フェスタや勉強会では、自治体や企業を巻き込むことができている。 ② WEB システムの活用が十分に行われていないため、大まかな流れはつかめているものの。ハブ拠点からの物資の詳細な流れをつかみ切れていない。	2021 年度食フェスタ 1 回、学習会 1 回開催 参加者数：85 名（うち行政 22 名、企業 15 社） 2022 年度学習会 2 回開催。スタート当初よりは関係団体数が増えている。 今年度実施の学習会に関する呼びかけ対象先・参加団体数は上記進捗報告書を参照。 WEB システムをまだ十分に活用できていないため道内の流通状況が可視化できていないが、道内の食糧支援・フードバンク団体の会合や団体へのヒアリングを通じて把握に努めている。こども食堂、フードバンクのハブ拠点では、冷凍冷蔵庫の必要性より、新たな電気代についてのランニングコストを心配していて導入にはいたらない。しかし、企業にいくつかのハブ拠点を持ってもらうことで、経費を企業負担できるように働きかけたい。 また、北海道内の寄贈品は減少傾向にあり、積極的な営業が必要なことと、それを運ぶ物流の整備が必要になっている。

実施をとおした活動の改善、知見の共有	③本事業の達成に向けて巻き込むべき行政の関連部局（道・市町レベル含む）、経済団体、業界団体（食品・配送・観光等）への働きかけが十分されているかどうか	勉強会を通じての発信は行われている。しかし、企業への働きかけをもっと行う必要がある。	コロナも収束してきている中で、観光業の活発な動きが予想されることから、観光業へのアプローチを行っている。また、商工会議所などを通じて、企業へのアプローチを高めてゆく。 札幌市が物流について予算を組むために情報収集と準備を始めていることから、その他の行政へのアプローチも積極的に行いたい。
組織基盤強化・環境整備	④北海道において食品の寄贈･分配を行う窓口としての団体の認知度 ⑤計画通りに予算が執行されており､事業を実施する体制が整っているか	④道庁を通じて認知はされている。 ⑤昨年度は十分に使われていない。	④認知度アップのためにも、WEB による情報発信と、新たな情報誌により情報発信を行う。 ⑤予算を執行できるように計画を、資金分配団体と相談しながら活動を行う。冷凍冷蔵庫をハブ拠点に配布する予定だったが、すでに所有していたり、ランニングコストの問題で必要性がなかった。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

スタート当初になかった協力企業が 20 社以上になり、食の物流ネットワークの理解者、協力者が増えた。また、社会福祉協議会のつながりもできた。一方で、物流についてはまだまだ課題を残している。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

「配電」に当たるハブから食料を配るステイクホルダーが、こども食堂ではなく一部フードバンクに変わりつつあること。

冷凍、冷蔵庫を各ハブに支給しようとしたことが、すでに概ね受け入れの体制ができていたこと。

④　事業計画の改善の必要性の確認

☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
☑ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
☑ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
☑ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☐ 事業計画は適切に改善されたといえる ☐ 事業計画を適切に改善する見込みがある ☑ 事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	北海道モデルと言える「北海道食の物流ネットワーク」をつくるためには、倉庫、物流、企業からの食の提供の３つが課題であり、その課題の解決が急務。

⑤　中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

北海道モデルを示すパンプレットの作成、それと連動した WEB ページの制作。

添付資料
活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、３～4 枚程度）